

クラインガルテンからの利用料収入による地元住民の雇用について

—クラインガルテンが地元におよぼす経済効果の一環として—

Employment of the local inhabitants by Rent for *Kleingartens*

-As one of the economic function of *Kleingartens* for Rural area-

○井上真美* 牧山正男**

INOUE Mami* and MAKIYAMA Masao**

1. はじめに

著者らはクラインガルテン（滞在型市民農園，以下，KG）を，農園利用者とそれに関与する地元住民との都市農村交流が特に形成されやすい施設だと捉え，地域活性化の観点からその実態や計画上の課題について検討してきた¹⁾²⁾。

本報では視点を換え，KGを通じた地域経済の活性化に注目することにした。その方法としては交流人口の増加や宣伝効果なども考えられるが，本報では利用料収入による地元住民のKG管理者などへの雇用の可能性について検討する。

2. 事例の概要および調査方法

2008年度現在，43市町村56地区に開園されているKGのうち，9市町村12地区で地元住民による管理運営が行われている（Fig.1）。そのうち3つ（KG-A～C，Table 1）を事例とした。

KG-Aは，地元集落の自治会を母体とした組織が管理運営している。KG-Bは，地権者や地元農家が組織した農事組合法人が，開園当初より指定管理者になっている。KG-Cは，KG管理のために町内の農家によって結成された組合が，2005年から指定管理者を務めている。

本報では，各地区の行政職員・KG管理者（地元住民）への聞き取りにより，利用料収入による管理運営費や創出された雇用の種類，雇用されている人数などについて把握した。

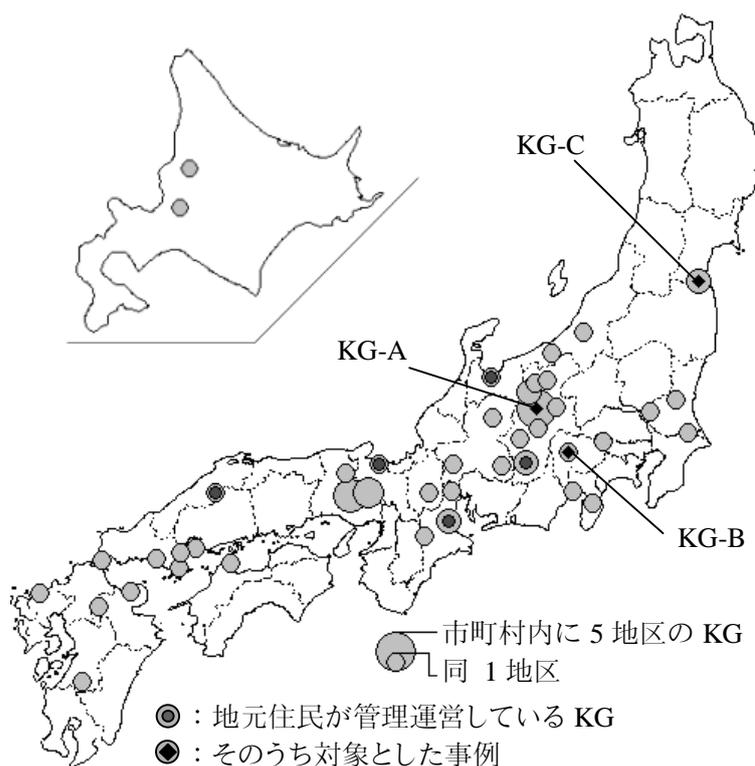


Fig.1 クラインガルテンを有する市町村（2008年度現在）
The locations of *Kleingartens* in the municipalities

Table 1 各事例の概要
The profiles of each *Kleingarten*

対象事例	KG-A	KG-B	KG-C
開園年	2003年	2006年	2000年
区画数	18区画	50区画	18区画
年利用料	35万円	40万円	36万円
管理運営組織	地元集落(26戸)の自治会	農事組合法人	農家による組織
構成員	各戸1人，26名	地権者と地元農家，37名	町内の農家，39名
備考	冬期は閉鎖。	体験農園なども運営。	併設直売所も運営。
調査時期	2006年12月	2009年1月	2007年9月
調査対象	各地区の行政担当者および管理者		

*東京農工大学大学院連合農学研究科 United Graduate School of Agricultural Science, Tokyo Univ. of Agri. and Tech.

**茨城大学農学部 College of Agri., Ibaraki Univ. キーワード：クラインガルテン，地元住民の雇用，地域活性化

3. 各事例KGにおける地元住民の雇用状況

(1)KG-A：地元集落の自治会がKGからの収入のみで管理運営

KG-Aは、最寄りの鉄道駅や高速ICから約1時間半を要する、交通の便が悪い、雪深い山間地域で、スキー客以外には地域外からの来訪者をほとんど得られない地区に開園された。

KG-Aは、契約主体である行政が徴収した全利用料630万円（年間契約料36万円×18区画）のうち、210万円が管理運営委託料として地元集落の組合に支払われている。その多くが管理・交流施設（クラブハウス）の光熱料に費やされ、残りが管理者1名（毎日朝晩にKGを見回り）の雇用料やイベント時などの臨時雇用料、会合費などに充てられている。管理者は年間56万円（4～11月は月給6.5万円、12～3月は同1万円）で雇用されており、利用者への対応やイベントの企画などを行っている。

(2)KG-B：農事組合法人（指定管理者）が大規模（50区画）なKGを管理運営

KG-Bは、農事組合法人が集金した全利用料2000万円（40万円×50区画）のうち、800万円を行政に納め、残りの1200万円が管理運営されている。その中で450万円が人件費である。具体的には、管理者1名（常駐）、事務2名（パート、週5日）、利用者個々へ農作業支援などを行う「お世話役農家」25名（年間3万円）、イベント時などの臨時雇用に支払われている。

(3)KG-C：同時に人気直売所も管理運営

国民宿舎に近接しているKG-Cには、地域で有数の農産物直売所が併設されており、それもKGを管理している組合が運営している。この直売所は3～11月の土日祝日のみ（約100日）の営業であるにも関わらず、地域内外から多数の客を得ており、年間約2500万円を売り上げている。この直売所に出荷するためには、この組合の会員である必要がある。逆

に言えば、出荷者は、回り持ちではあるが、KGの管理に関与することが義務づけられる。

KG-Cは管理運営費として約800万円が充てられている。収入源としては、全利用料648万円（36万円×18区画）のうちの約400万円と、直売所の売上げの15%（約400万円）である。この中から常駐管理者（5名ずつ、2年任期）に年間合計で約240万円（日給0.5万円×約480日分）と、直売所のレジ係へのパート代、イベント時などの臨時雇用、会合費などが支払われている。管理者は、平日1名、土日祝日2名が9時～17時で管理棟に常駐し、農作業支援などの利用者への対応や共有部分の管理、イベント企画や事務作業などを行っている。

4. KGによる雇用確保および拡大の可能性

以上のように、KGは、来訪者があまり見込めないような交通不便な地域においても、利用料収入として安定的な収入を得られる。それを生かした地元住民の管理者やパートとしての雇用は、彼らに少なくない収入をもたらす。

また、交通条件などにより、利用者以外の来訪者も見込める地区に開園されたKGについては、直売所や体験農園などと組み合わせることによって、管理側としての収入増、雇用の拡大につなげられる可能性もある。

さらに、イベント時の手伝いなどへの臨時雇用は、イベント参加の動機づけとして、地元住民のKGへの関与を促進する可能性がある。

文献1)井上・牧山(2009), 農村計画学会誌27巻論文特集号.
2)井上・牧山(2008), 農業農村工学会秋田大会講演要旨.

Table 2 各事例の管理運営費とそれによる地元住民の雇用
The administrative cost of each *Kleingarten* and the employment of the local inhabitants

	KG-A	KG-B	KG-C	
管理運営費 /利用料(円)	210万 /630万	1200万(うち人件費450万) /2000万	400万 /648万	
雇用	管理者 (収入・円)	1名 (56万/年)	1名 (不明)	5名 (約50万/年・人)
	パート (収入・円)	—	事務2名(不明), 農家**25名(3万/年・人)	—
	臨時*	○	○	○

*イベント時の手伝いやKG内の共有部分の管理など, **「お世話役農家」